

# 生活

seikatsu@asahi.com

## 「身元保証人」誰に頼れば…

病院や高齢者施設には入院・入居の際、「身元保証人」を求める慣習があります。多くは家族が担いますが、頼れる人がおらず、身元保証業者に依頼する人もいます。



家族って 制度編④

身元保証人がおらず、転院先探しの際に苦労した。愛知県内の男性(66)は3年前、そんな状況に陥った。

地元の建設会社で働いていた時、左半身の力が抜けるのを感じた。脳卒中。近隣の大病院に救急搬送されて2カ月が経った頃、リハビリ病院への転院を求められた。

「頼れる人は、いなかったねえ」  
男性は、力なく当手を振り返る。支払いの担保や緊急時の対応、院内で亡くなった場合の引き取りまで。病院側は身元を一手に引き受ける保証人を求める。最初の入院先には保証人を立てなくても受け入れてもらえたが、転院先はそうはいかなかった。

男性は独身だったが、きょうだい6人。皆近くに住んでいた。だが、15年ほど前にきょうだいを巻き込む金銭トラブルがあり関係が悪化。保証人になつてくれるよう頼め

ず、転院先が見つからなかった。  
男性を見かねた救急搬送先は、家族に代わって身元保証人を引き受ける名古屋市のNPO法人「きずなの会」に連絡した。入院の身元保証から亡くなった後の葬儀の手配まで、2001年の発症で、契約している会員は約4300人。



公益社団法人「成年後見センターリーガルサポート」の調査結果から抜粋

- 身元保証人に求めるものは？
- ・入院費・施設利用費の支払い
  - ・債務の保証
  - ・緊急の連絡先
  - ・医療行為の同意
  - ・遺体・遺品の引き取り

## 入院・入居時 引き受け業者に依頼

法人「りすシステム」(東京都)を紹介され、100万円を支払って契約した。

### 保証人の有無 「法令は建前」

後見制度の利用につなげたりするケースも多い。

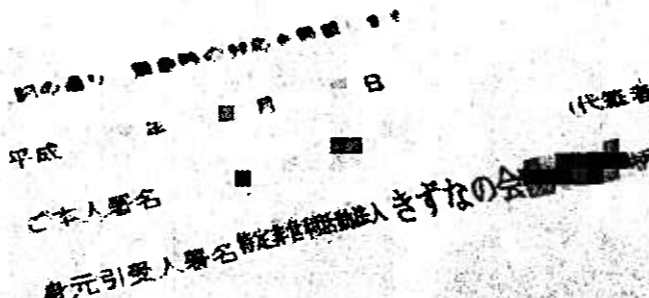
介護保険施設の関係者は「法令は建前。身元保証人がいないと、急変時や死亡時に現場は対応できない」。

身元保証人は、慣習で家族が担ってきた。だが、国立社会保障・人口問題研究所によると、50歳までに一度も結婚したことがない人の割合である「生涯未婚率」(15年)は、男性で23・37%、女性で14・06%と上昇を続けている。2036年には人口の3人に1人が65歳以上になると推計されている。

こうした背景から身元保証業者が誕生。内閣府・消費者委員会の報告書によると、全国に数十百社程度存在するとみられる。インターネット上で検索すると、料金はサービスに応じて数万円から数百万円。ただ、大手の「日本ライフ協会」が預託金を流用し

て複数の保証業者を検討し、りすシステムと契約した。女性には連絡を取り合ういともいるが、親戚に負担をかけたくないという。

「年をとってからの入院は、そのまま死ぬことだってありえる。その時、遺体の引き取りを求められても困るじゃないですか」



転院先探しに苦労した男性が介護施設に入る際に交わした書類。身元引受人欄には「きずなの会」とある(個人情報記載がある部分などにモザイクをかけています)

今回の「制度編」に掲載した夫婦別姓や社会保険税制の壁、相続、身元保証など「家族」をめぐる自身の体験や意見を募集します。  
次回、生涯未婚率の上昇などで話題になる「おひとりさま」について取り上げる予定です。住まいや子ども、老後など、関連する投稿をお待ちします。電話番号を明記して、メール(seikatsu@asahi.com)やファクス(03・5540・7665)で、または郵便(〒104・8011住所不要)で、朝日新聞文化くらし報道部「家族って」係へお寄せください。

経営破綻するなど、金銭トラブルも起きている。  
NPO法人「シニアライフ情報センター」(東京都)の池田敏史子代表理事は「身元保証業者は今後も増えていくだろう。ただ、トラブルを避けるため、業者を届け出制にして情報公開を義務づけるなど、リスクを減らす仕組みも必要だ」と話す。  
(斉藤純江、高橋健次郎) 〓おわり